

東北学院大学 災害ボランティアステーション



TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY Disaster Volunteer Station

東北学院大学災害ボランティアステーション

所長

伊鹿倉 正司 (東北学院大学経済学部経済学科教授)



他人のために何かをするときに得られる「喜び」は何物にも替えられないものです。ボランティアをすることで学生がこの「喜び」を実感してくれることを望んでいます。



平成28年熊本地震募金活動



学生間交流ミーティング

STAFF MEMBERS MESSAGE

東北学院大学災害ボランティアステーション

学生代表

坂口 歩夢 (東北学院大学教養学部地域構想学科3年)



震災から6年が経ち、目に見える復興が徐々に感じられるようになりました。しかし、仮設住宅・復興公営住宅で孤立していく高齢者や依然として経営が厳しい水産業、遊び場を失った子どもたち等、行政の行き届かない、目に見えない復興があります。何気なく毎日を過ごす私たちの近くに不安な思いでいる人たちがいます。「若い力」が今もなお、被災地域に必要です。東北学院大学は震災ボランティアの拠点大学で、学生を主体に、多様な活動を行っています。「大学で何かやってみたい、人のために何かしてみたい!」と思っている皆さん、ボランティアには多様な可能性があります。一緒にボランティアを通して人とのつながりを学び、東北を盛り上げませんか?

登録方法

検索サイトで

東北学院大学災害ボランティアステーション

検索

復興大学災害ボランティアステーション

検索

定期的にメールマガジンも配信しておりますので、是非登録をお願いします。

●お問い合わせ先

東北学院大学災害ボランティアステーション

TEL : 022-264-6521 (受付対応時間/平日 11:00 ~ 16:30)

E-mail : tgvolu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp



土樋キャンパス



〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-17号館2階 725教室
(東北学院大学地域共生推進機構、復興大学災害ボランティアステーションとオフィスを兼用)

泉キャンパス



〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1-1 コミュニティセンター内
(東北学院大学生活協同組合隣に設置)

東北学院大学 災害ボランティアステーションとは



平成28年7月山元町農地復興支援活動



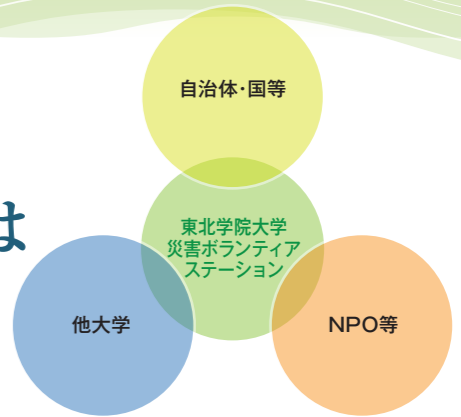
平成28年8月夏ボラ気仙沼プロジェクト子ども交流活動



平成28年10月岩手県岩手郡豪雨災害ボランティア活動



平成28年11月石巻市杜鹿地域交流スタディツアー



東北学院大学
災害ボランティア

ステーション(以下、「ステーション」)は、地域情報を集約・共有し、支援を必要とする人に本学学生・教職員が直接支援するとともに、市町村災害ボランティアセンターや全国の大学と連携し、被災地支援のための広範な活動を中継・展開しています。また、ステーションを通して、学生にボランティアという新しい学び・成長の場をセッティングしています。

東日本大震災後の2011年3月29日に発足した当ステーションは、当初、仙台市社会福祉協議会が中心となって設立した災害ボランティアセンターに協力し、学生と被災者をつなぐことを目指し活動を開始しました。その後、次々と被災地から支援の申し出が増えたのを受け、ステーションとしての独自の活動も展開することとなりました。

発足当初から、被災地域に対し、大学としてどういった支援ができるかを、学生と教職員と一緒に試行錯誤して参りました。被災地の汚泥除去、屋外清掃等に始まり、混乱した交通状況の整理、避難所への後方支援、支援要請のマッチング業務など、多様なニーズに対応いたしました。

設立から約6年が経過しようとしている現在、活動内容が多種多様化し、様々な組織との連携体制を持っており、ステーションの役割・機能も広範囲に及んでいます。

主な役割・機能

設立当初から、社会福祉協議会が設置するボランティアセンターの大きな機能であるボランティアマッチングをベースとして、活動を行う中間組織・後方支援組織として活動しております。主に学生へボランティア募集の情報発信、活動のマッチング等、大学のボランティアセンターとしての役割を果たしていくのですが、この機能をベースに、様々な独自の役割・機能を果たすことになりました。

1 ボランティアマッチング

ボランティア募集情報等を収集して、大学生に紹介し、ボランティア活動につないでいます。

2 情報発信

ホームページ・SNS等を通して、様々な復興の情報を発信しています。

3 中継機能

支援できる人と支援を受けたい人をつないでいます。

4 日本全国の学生の復興の輪を広げる 「大学間連携災害ボランティアネットワーク」

震災時、本学もまた被災校であり、日本全国の大学から支援をいただきました。一つの大学では対応が困難な問題も、大学間が互いの個性を尊重し合い、できる支援を集約したとき、大きな力となりうるのではないかと考え、このネットワークを本学が立ち上げ、現在も取り組んでいます。

5 宮城県の大学が手を取りあう 「復興大学災害ボランティアステーション」

本学は、宮城県の学生が積極的に関われるボランティアネットワークの代表大学でもあります。復興へ関わる気づき・きっかけの場として、様々な機会をセッティングしています。



平成28年11月
秋ボラ石巻市雄勝町プロジェクト



平成29年2月
山形県豪雪地帯除雪ボランティア活動

いくつかの活動取組紹介

REPO 1 七ヶ浜町 災害復興公営住宅支援活動

当ステーションでは2011年から宮城県七ヶ浜町で足湯ボランティアを中心に活動を行ってきました。現在は被災を受けたほとんどの方が仮設住宅から公営住宅へ移っている状況です。住民の方の依頼もあり、2015年12月から葛蒲田災害公営住宅の集会所で月に1回のペースで交流会を行っています。交流会では住民の方と学生が企画したレクリエーションやお茶を飲みながらお話をしています。交流会は住民の方が外に出るきっかけと住民の方同士が集まれる場を作ることを目的に行っています。



当ステーションとして初めての災害公営住宅での活動となりますが、これからも住民の方とのつながりを大切に、一方的なボランティア活動を行うのではなく住民の方と協力して活動を行っていきます。

REPO 2 夏季集中ボランティア活動 「夏ボラ」

定期的に行っている活動のほかに、夏休みに「夏ボラ」という宿泊型のボランティア活動を実施しています。気仙沼や石巻に行き、景観回復作業や、遺留品捜索など様々な作業を行ってきました。普段の活動とは異なる活動を通して、現地でボランティアをする重要性など、学生各々が多くの事を学びました。また、たくさんのお大学の学生と交流することで、良い刺激を受けています。



M E S S A G E

ボランティア活動を通して見えてきたもの

- 東北学院大学災害ボランティアステーション
- 学生スタッフからのメッセージ



佐藤 稔 (東北学院大学経済学部共生社会経済学科3年)

私は、中学生の頃に東日本大震災を経験しました。それから、ボランティア活動をしたと考えており、東北学院大学災害ボランティアステーションの学生スタッフになりました。入った当初、すでに震災から4年経っていたので、どんなボランティアをするのか分かりませんでした。それから、ボランティア活動を重ね、被災地の現状、被災地のニーズ、被災者の声を知ることができました。それらを知る事によって、私の中でボランティアに対する考え方が変わりました。私はボランティアに人と人との繋がりは必要ないものであり断続的に行われていると思っていました。しかし、実際のボランティアは、被災地と被災者に密接に関係を持ち継続的に活動することが肝要です。また、今のボランティア活動に私たち学生のような「若い力」が必要だと感じます。これからも私たちが出来ることは沢山あるのではないかと思います。

ボランティアは楽しくないものだと感じるかもしれませんが、私も始めた当初は楽しいものだと感じていませんでした。しかし、活動を通して被災地の方に感謝され、自分たちの活動は正しいものだったと実感することができました。それはとても達成感があり、それを感じてからは私はボランティアを楽しいものだと思うようになりました。新入生の皆さんも私たちと一緒にボランティアをしてみませんか？



- 東北学院大学災害ボランティアステーションに関わった
- 学生スタッフOBからのメッセージ



手塚 亮 (会社員)

私は、人のため誰かのためになりたいという思いから、東北学院大学災害ボランティアステーションの学生スタッフになりました。恥ずかしながら当初は、東日本大震災が起きてからの被災地の現状を知らず、自分になにができるか、復興のためになにができるかといったことを深く考えたことがありませんでした。しかし、被災地に足を運び、現状を知り、現地の人の声を聞き、活動を通していく中で自分になにができるか、復興のためになにができるかといったことを考え活動するようになりました。そこで気がついたのは、震災から年月が経ちボランティアのニーズも多様化してきているということです。「若い力」が必要とされているいま、学生にできること、学生だからこそできることがたくさんあったと感じます。

私は多くの学生にボランティアを行ってほしいと考えています。私自身ボランティアを始めたことで、数多くの人と出会い、様々な経験をしてとても大きく成長することができました。ボランティアを始めていなければ、いまの自分はないと思います。人々の力になりたい、自分自身を成長させたい、大学生活を充実させたい、理由は人それぞれでいいと思います。きっかけは様々であれ、一歩踏み出すということが大切です。ぜひ、災害ボランティアステーションで活動してみませんか？あなたの中で必ずなにかが変わると思います。